



令和 8 年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第 5 号

令和 8 年 7 月 14 日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

- **幼穂形成期に入りますので、生育ステージを確認し、必要に応じて適期に追肥を実施しましょう。**
- **水田周辺の畦畔で斑点米カメムシ類が多く確認されています。7月中旬までに水田周辺の草刈りを実施しましょう。**
- **高温が続くときや用水不足時は、飽水管理を実施しましょう。**

1 気象の概況

7月第1半旬は日照時間が平年を下回り、気温は平年並みの推移となりました。7月第2半旬は日照時間、気温ともは平年を上回りました。

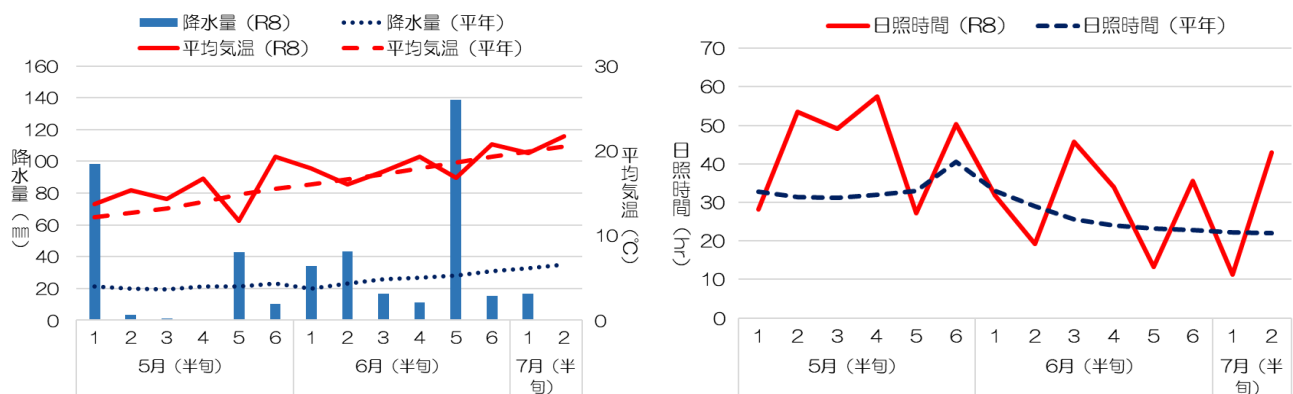


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5月1日～7月10日）

2 水稻生育調査ほの生育概況（7月10日調査）

本年は前年よりも移植時期が遅かったことから、草丈、茎数は前年を下回っていますが、前回調査時より前年との差は縮まっています。葉色値は前年より高い39.4となりました。なお、幼穂は確認されませんでした。

表1 水稻生育調査結果（7月10日調査）

品 種 地区名	年	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	茎数 (本/株)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ	R8	5/25	45.4	407.7	22.4	39.4
気仙沼市本吉町	前年比・差	+11日	72%	65%	69%	124%

3 出穂予想

三陸沿岸の幼穂形成期、減数分裂期、出穂期の予測は表2のとおりです。ただし、今後の天候によっては生育ステージの時期が変動することもあります。**ほ場で幼穂長を確認し、表3により生育ステージを把握することが重要です。**

表2 生育ステージの予測（令和8年7月10日現在）

地帯区分	移植時期 (田植え盛期)	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
三陸沿岸	5/12	7/11	7/21	8/4

注1) 幼穂形成期及び出穂期は、「DVR法」による予測であり、減数分裂期は幼穂形成期の10日後とした。気温はメッシュ農業気象データ（農研機構）により、当日までの実況値とその後26日間の予報値を使用している。

注2) 移植時期の葉数は県生育調査ほ＋作況試験ほ「ひとめばれ」平均の3.0葉とした。

注3) 地帯区分「三陸沿岸」は、気仙沼市・南三陸町の全域と石巻市・登米市の一部。

4 今後の栽培管理

(1) 水管理

- 三陸沿岸の田植盛期は5月12日のため、幼穂形成期を迎えているほ場が多いと思われます。この時期の水不足は幼穂の发育を妨げるため、**中干しは終了しましょう。**
- 中干し終了後は急激に湛水状態とすると根を傷めるので、最初は走り水とし、その後、**間断かん水又は飽水管理（田面の足跡に水がなくなる頃に水を入れ、土が十分に湿ったら排水する）**としましょう。
- 飽水管理は、根の健全化と茎の充実への効果のほか、**高温対策として有効です。**

農業用水不足時における今後の水管理について

ほうすいかんり

飽水管理のメリット

- ◎限られた用水で実施可能
- ◎根の活力維持
- ◎地温の上昇抑制

稲体の温度が夜間に下がるため、光合成により作られた養分が籾に転流しやすくなる。

白未熟粒や胴割粒の発生を抑制できる

高温時の湛水管理のデメリット

出穂期以降の夜温が高いと、「湛水管理」では夜間の水温が下がらないため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまう。

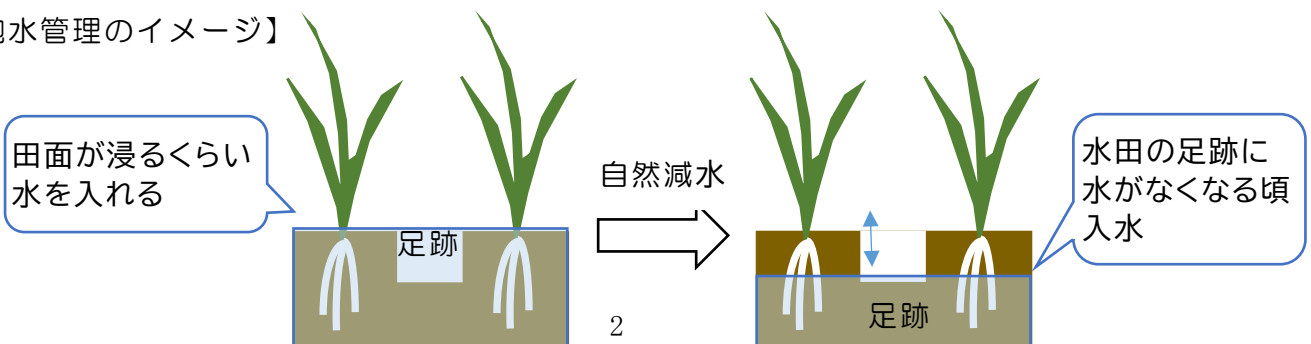
⇒白未熟粒の発生を助長

(参考) 飽水管理の方法

- ① 水尻を閉める。畦畔からの漏水がないか確認する。
- ② 田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- ③ 水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。
- ④ 足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで入水する。
（目安は3～5日おき）

※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。間断かん水～飽水管理を徹底し、**土壌を湿った状態に保ちましょう。**

【飽水管理のイメージ】



(2) 追肥

登熟期の光合成能力の向上、出穂後の高温による白未熟粒の発生の軽減、玄米品質の向上のため、ほ場ごとに葉色や生育ステージ（幼穂長）を確認して**追肥を実施しましょう**。

表3 各品種における追肥の時期と量の目安

品 種	窒 素 施 用 量 (成分量kg/10a)	
	幼穂形成期（出穂25日～20日前） ※幼穂長1～2mm	減数分裂期（出穂15～10日前） ※幼穂長3～12mm
ひとめぼれ	1	1
ササニシキ	—	1.0～1.5

(3) 病虫害防除

【斑点米カメムシ類】

- ・県病虫害防除所の防除情報第2号（7月7日発行）によると、「6月下旬から7月上旬の巡回調査の結果、水田周辺の畦畔における斑点米カメムシ類の**発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年よりやや多かった**。」と発表されています。
- ・水田周辺のイネ科雑草の刈取りは、斑点米カメムシ類（特にアカスジカスミカメ）の密度を低くするため、幼虫主体の時期である**7月中旬までに実施しましょう**。
- ・水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行うと水田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるため、**水稻が出穂する10日前までに実施しましょう**。
- ・薬剤防除は、**穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本**となります。

【いもち病】

- ・葉いもち感染好適日を判定するシステム「BLASTAM」によると、管内では**7月3日**に好適条件が出現しています。ほ場を見回り、発生を確認した場合は、茎葉処理剤で直ちに防除しましょう。
※葉いもち感染好適条件の出現状況（BLASTAM（ブラスタム））は、県病虫害防除所ホームページで確認できます（URL:<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>）
- ・穂いもち防除には、予防効果のある水面施用剤（粒剤、パック剤）を、出穂10日前までに散布しましょう。

【紋枯病】

- ・県病虫害防除所の発生予報第3号（6月24日発行）によると、発生量は「やや多」となっています。
- ・出穂期前からの発病は被害が大きくなります。また、前年に発生が多かったほ場では、多発のおそれがあります。
- ・茎葉処理剤による防除又は処理適期は、穂ばらみ期から出穂期です。要防除水準は出穂直前の発病株率が「ひとめぼれ」で18%、「ササニシキ」で10%となっていますので、要防除水準に達した場合は直に防除しましょう。
- ・株元に薬剤がよく付着するように十分な薬量で散布してください。

【稻こうじ病】

- ・前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤による防除は出穂20～10日前に防除を実施しましょう。

5 乾田直播栽培普及展示ほの生育概況（7月10日調査）

（1）調査ほでの生育状況

草丈、茎数、葉色値の項目で前年を下回る結果となりました。

表4 水稻生育調査結果（7月10日現在）

品 種 地区名	年	播種日	苗立率 (%)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市本吉町	R8 前年比・差	3/25 －2日	66.1% 98%	46.7 82%	461.0 88%	37.4 88%

（2）今後の栽培管理

前述の「4 今後の栽培管理」を参照。

7 高温に関する早期天候情報（東北地方）

（令和8年7月9日 仙台管区気象台発表）

東北地方 7月15日頃から かなりの高温

かなりの高温の基準：5日間平均気温平年差 ＋2.4℃以上

東北地方の向こう2週間の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、かなり高い日が多い見込みです。

熱中症の危険性が高い状態が続きます。屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保するなど熱中症対策を行い、健康管理に注意してください。また、農作物や家畜の管理等にも注意してください。

なお、1週間以内に高温が予測される場合には気象解説情報（高温）を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。

★7月から9月は 夏の熱中症等声かけ期間 です！

農作業中の熱中症等による死亡者が急増しています！

このうち、約85%が7～8月に発生しています。

熱中症事故は、周りの人がお互いに気を配り、声をかけ合うことで、防げる可能性があります！



（参考）

農林水産省 HP

熱中症対策の3つのポイント！

- ① 温度を見て作業を考えよう ② こまめに休憩を取ろう ③ もしもの時の応急処置